

夢と理想をいつも心に！

校長 中川 豊 巳

本年度のボストン日本語学校での教育活動は、今日ですべて終了です。本日、卒園・卒業・修了された皆さん、本当におめでとうございます。卒業とともに本校を離校する人もいることと思います。これまで、日本語学校を続けるために、言葉では言い表せないほど苦しいこともたくさんあったことと思います。でも、今日まで本当によく頑張りましたね。ある保護者の方から、「金曜日の夜は戦争」という言葉をお聞きしましたが、保護者の皆様におかれましても、「やっとこの区切りまでたどり着けた…」とホッと胸をなで下ろしていらっしゃると思います。常日頃からの保護者の皆様のお支えがあつての本校です。心から感謝申し上げます。



そして、本日それぞれの学年を修了された皆さん、卒業までたどり着いた皆さんをひとつの目標として、これからもこのボストン日本語学校で頑張ってください。

さて、先日、卒業生の皆さんに、「ひとつだけ夢がかなうとしたら？」と題して一言書いてもらいました。日本では、夢をもてない子どもが増えているという話を聞いたことがあります。ボストン日本語学校の子どもたちはどうかなという思いと、夢をもつことの大切さを意識してもらいという思いで投げかけてみました。とても漠然とした質問をいきなりされて、何を書いてよいかわからず悩んだ人も多かったことと思いますが、みなさんが答えてくれましたので、紹介したいと思います。

「MLBに入ること」「プロ野球の選手になること」「プロのサッカープレイヤーになり、FCバルセロナで活躍すること」「東京オリンピックに出ること」など、スポーツを極めたいという夢をもっている人がたくさんいました。「ミュージカルの女優になること」「ごちんまりした海の真横にある家が欲しい。その家の地下に陶芸のスタジオがあつて、窯があつて…」「競技かるたがオリンピックになる」など、文化・芸術に関する夢を抱いている人も何人かいました。

さらに、本校に通う子どもたちの大変さが伝わってくる夢を書いたものもあります。「寝る時間がもっとほしい」「時間がほしい」「魔法を使えるようになりたい」「ドラえもんをクリスマスプレゼントでもらうこと」「スーパーマンになること」「馬になって幸せに生きること」など、現地校と日本語学校の両立をすることがどれだけ大変なのかが伝わってきました。頑張ってくれているからこそ、そのような夢をもつのもかもしれませんね。

世界に目が向いていることも本校の特徴でしょうか。「どこでもドアを手に入れて色んな国へ旅行して、様々な文化に触れ合いたい」「世界中のどこでも行けること」「三カ国語以上しゃべられるようになり



たい」など、まだ見ぬ未知の世界への興味・関心を抱いている人もたくさんいました。そして驚かされたのは、「世界が平和になってほしい」「戦争のない世界になってほしい」「夢が人々自身の力と努力でかなう世界になること」など、「世界平和」に関することを書いてくれた人が15人ほどいたことです。日本語の宿題で苦しみながらも、日本とアメリカ、日本語と英語の2つの世界で生きる皆さんだからこそ、世界を視野に入れた夢をもてるのかもしれませんがね。実は、これは「日本文化を愛し 進取の気性と 人類愛の精神を持ち 世界平和に貢献しようとする 国際性豊かな子どもを育成する」という本校の創立からの学校教育目標でもあり、うれしく思いました。

中には、「自分の夢を見つけない」「まだわかりません」「ないです」という現在の状況を正直に書いてくれた人もいます。「青年になって校長先生と一緒に飲みに行きたいです」と、私を喜ばせてくれるようなものもありました。いずれにしても、夢に大きい、小さいはありません。大切なことは夢や理想をもって日々を生きることです。そうすれば、自分がしていることの全てが意味をもつようになると思います。

「夢は逃げない。逃げるのは人の方だ」という言葉をどこかで目にしました。その通りだと思います。夢と理想をいつも心に、前に進み続けてください。あきらめなければ、この学校に通う皆さんなら、ほとんどの夢はかなえられると私は信じています。

皆さんのこと、いつも応援しています。そしていつか、大人になって夢をかなえて活躍している皆さんに再会できることが私の夢でもあります。その日を楽しみにしています。

最後になりましたが、私もこの3月で本日卒業した皆さんとともに、ここボストン日本語学校を卒業いたします。これまでお支えいただきました在ボストン日本国総領事館、ボストン日本人会、運営委員会・PTA役員の皆様始め保護者の皆様、教職員の皆様、その他たくさんのお力添えいただきました皆様に、心より感謝申し上げます。皆様にお会いできたこと、そしてだれよりも希望に満ち溢れたボストン日本語学校の子どもたちに出会えたことが、最高の宝物です。この宝物を胸に、日本に戻ります。本校に通う子どもたちが、いつでも安心して日本に帰国できる環境が整うよう、新しい赴任先で私も頑張っていこうと思っています。

三年間、本当にお世話になりありがとうございました。それでは、お元気で！

